

ツアー全般に渡るレポート「TPC SV Tour に参加して」

(参加者1)

TPC SV Tour に参加して、なぜもっと早く海外へ行かなかったのか本気で後悔しました。今まで自分はあまり外に出るのが好きではなく、自分の周りの小さな世界で生きてきました。しかし、今回のツアーで自分の知らないことばかりの世界を知り、世の中には様々な人、考え方、文化があり、その面白さに気づくことができました。そして、さらに色々な国に行って自分の知らない世界を知りたいと思うようになりました。

よく、大人から学生の間に関海外へ行くべきだという話を聞いていましたが、本当にそうするべきだと思います。実際に体験しないとわからないこと、話だけでは伝わらないものがたくさんあります。今回自分はこのツアーに選ばれて行くことができましたが、このような海外研修などは学校でもやっているはずで、他の学生の方々も、そういうものを使って、英語ができない、お金がない、などを理由にせず、とりあえず海外に行ってみてほしいです。

(参加者2)

今回のツアーに参加してシリコンバレーで働く人、現地の学生、ツアーの参加者と様々な人に出会って、いろんな話を聞いて、議論して、考え方や行動力が自分と全然違うことに大きな衝撃を受けた。東北をフィールドにして震災復興に役立つ研究をするというのが私の中で復興支援のゴールとなっていたが、もっとできることがあるのではないかと思った。研究にとどまらず、それを生かした仕事をして、失敗を恐れずに自分にしかできない形の復興支援を継続する、と強く思った。また、今回のツアーで新しく出会った人や考え方は今後大きな財産になると思う。

(参加者3)

今回のツアーに参加して、私は“人と人のつながりの大切さ”を強く実感しました。シリコンバレーに住んでいる日本人の皆さんが、初対面の私に対してとても親切に接してくださり、とても感激しました。また、皆さんの日本を愛する心を感じて、もっと愛国心・地元愛を持って行動したいと思いました。

私の将来の夢は記者になることです。記者は多くの人と接する仕事なので、これからはもっと積極的に多くの人と接することができるような機会に参加していきたいです。

(参加者4)

今回のツアーを通じて私は、「行動力」と「人とのつながり」が自分の将来の可能性を広げると知った。自分の目標を達成しようとするときに、それを成し遂げたことがある人や関わっている人とつながりを持つことはなにかしら有意に働く。そのつながりを持つためには、「自分はこういう目標がある」と広く情報を発信することで周りに同調する人を作ったり、同じ目標をもつ人にアプローチをかけていくなどの「行動力」が必要となってくると考えたのだ。

(参加者5)

まずはこの度、TPC SV ツアーにご選考いただきまして、本当にありがとうございました。二度目の渡米という事で、前回の「修学旅行」という括りでのトリップではなく、「研修」に行くという意気込みでの渡米でしたので、前回見た景色とは少し違ったサンフランシスコが自分の目に映ったような気がしました。共に過ごした

仲間に刺激され、良い意味で触発された点が個人的にもすごく多かったので、帰国して以降彼らのその姿勢を見習い、自分なりにライフスタイルを既存のものより向上させているつもりです。将来の自分の糧とすべく、その武器を多く得て帰国している次第でありますので、今後の私に図々しいながらも期待していただけらなと思います。

(参加者6)

このツアーに参加して、今まで積極的ではあったつもりだけれど、今回アメリカで五日間過ごして、自分からもっと行動していくことの大切さ、そして、その行動で、ネットワークを広げていくことの大切さを学べました。自分だけの考えに留まるのではなく、周りの人、世界にも目を向けることで様々な考えに出会うことができ、コミュニケーションをとることで、自分の夢の実現にも近づくことができると感じました。

今まで震災を受け入れ切れておらず、真剣に問題と向き合っていませんでしたが、今回参加させていただき、自分が今、何をすべきなのか、よく考えることができました。今問題となっている、地域社会。コミュニケーション網を太く広くすることが大事です。思いを伝えることが、コミュニケーションで最も大事なことです。また、若い世代の地域交流がなくなってきている今だからこそ、その若者が声を出して盛り上げていければ復興につながると思います。今回学んだことをもとに、これから東北を盛り上げていきます。思えば意識される。夢に向かって突き進んでいきます。

このツアーを企画してくださった、八神純子さんをはじめとするたくさんの方々はこのような貴重な経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(参加者7)

TPCシリコンバレーツアーを通して思うのは、シリコンバレーがなぜ今の状態、たくさんベンチャーが生まれたり産学の連携がとれていること、にいたったのかを様々な方の話を通して学びました。その環境などをそのまま東北に適用するのは難しくても、それらの一部を形を変えて東北に適用して、すこしでも被災地から身分を問わずチャレンジできる環境を作りたいと思いました。とくに私と同じような学生たちが、もっと渡欧北に関わり、そこで頑張っている人と協力してなにかを作り出せる環境を整える活動をしたいと思います。

(参加者8)

今回、このツアーに参加させていただき、世界の最先端で働く人々からお話を伺うチャンスを頂けたことに改めてお礼申し上げます。有難う御座いました。

はじめに、シリコンバレーという土地について思ったことです。東北の震災についてシリコンバレーから考えるということは、一見無関係のように感じるかもしれません。東北の震災について考えるだけなら、わざわざアメリカに行く必要はないという人もいるかもしれません。わたしもはじめは何故だろうと思いました。しかし実際にシリコンバレーに行ってみて、今までの自分が知らなかった、現地に行ってみないとわからない、シリコンバレーで実際に働いている人の生きた話、環境、考え方、ここに至るまでの経緯を肌で感じました。復興アイデアを考える上でももちろんそうですが、今後の人生においても深い印象を与えるだろうツアーになったと思います。ツアー中、純子さんが「わたしがもっと前に知っておきたかった環境を、若い世代に教えておきたかったんです」とおっしゃっていました。そのくらい、この土地での環境は今まで自分が知っていた環境とはまるきり異なる、自由な考えを持つ人ばかりでした。

シリコンバレーは世界でもトップのアイデアの宝庫です。新しい考えが日々生まれ、その考えに基づいた

会社もどんどん誕生します(ただしそのうちのほとんどは潰れていきます)つまり、世界でもっとも元気な場所だと考えることもできるのではないのでしょうか。ツアー中、「復興」という言葉の言い換えを考えていた時に「元気づける」という言葉が出てきました。世界で一番元気な場所で、その地で働く皆さんに刺激を受けて思いつく考えだったら、まさに東北を元気づけるそんな考えであることに間違いのないと思いました。

また、このツアーで改めて認識することになったのが、人と人とのつながりの大切さでした。そもそも、このツアー自体が、企画者である純子さんによる縁によるものであり、このツアーに関わって下さったスタッフ全ての皆さん、お話をして下さった全ての皆さんがご縁を大切にしていることが印象的でした。何かを成し遂げるには協力が不可欠です。そして協力があるためには、人のご縁が不可欠です。人と人とのつながりが新しい何かを生み出して、その集まりが新たな縁を生み出します。なにかを成し遂げたいという気持ちが他の人の気持ちと共鳴して、実際に達成されていくことが沢山起きていることに気づかされました。復興こそ、人のつながりが活かされてくる分野ではないのでしょうか。今回も、ツアーメンバーは全員が全く異なると言っては過言ではないほどの視点の持ち主でした。自分の分野と異なる人とともに考えることはとても刺激的ですし、また、違う分野が協力しあえばさらに良いものが生まれると思うのです。何かを成したいと思った時に、違う分野からも協力が得られればそれより心強いことはないと思います。今回のツアーで関わった皆さんの他者に対しての積極性と真摯な気持ちは見習っていきたいと思いますし、今回のご縁も大切にしたいと思いました。

最後に、直向きに努力することの大切さも学びました。チャンスが巡ってくるのは、偶然であるかもしれないが、そのチャンスを実際にものにするために、自分の分野をとことん突き詰めておく、準備は必ずやっておくという姿勢の大切さを再確認できました。講演してくださった方はもちろん、その道のプロフェッショナルという方々ばかりですが、チームメンバーの皆さんも、自分の分野に誇りを持っている姿が印象的でした。最後に、企画者である、純子さん、赤間さん、榎本さん、それからこのツアーに関わって下さった全ての皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。